

新宮山彦ぐるーぷ第1930回―1

「修復・役行者像」の開眼供養法要並びに慶讃採燈護摩供

出仕の本山修験宗・聖護院門跡一行の対応と

行仙宿に前泊して法要開催準備作業

◇実施日；平成29年05月16日(火)～17日(水)

出仕の本山修験宗・聖護院門跡一行の対応

◇実施日；5月16日(火)曇り時々薄日

◇参加者；山上皓一郎、川島 功。

2名。

聖護院門跡；宮城泰年ご門主、中村覚祐執事長、宮城泰岳

庶務部長、草分俊顕庶務主事、槇山恵壬庶務

主事、藤岡秀法教務主事。

6名。

同行者；東アジア言語・文化研究のカルフォルニアサ
ンタバーバラ大学；ロート・カリーナさん。

開眼供養法要に出仕して下さる本山修験宗・聖護院門跡一行7
名を下北山村スポーツ公園内宿舎「やすらぎ」に出迎えるため、
山上宅を13時15分に出発し、宿舎駐車場に14時25分着。

フロント・ロビー室に入ると、お世話になった顔見知りの支配
人・勝平芳明氏(前下北山村総務課長兼室長)が出てこられて、ご
挨拶方々本日の聖護院一行の接遇をお願いする。

聖護院門跡一行は、京都を9時半頃に出発し、到着予定時刻1
5時前の14時40分に到着。

14日にご門主様から女性1名追加の連絡があり、追加手配し
た方は、研究者のロート・カリーナさんでした。

五人宿泊可能部屋にご門主様と女性は一人、その他の方は二人
と三人で宿泊していただき計5室に宿泊。

一旦、荷を部屋に置き、案内ご希望の明神池・池神社と實利行
者分骨碑のご案内前に、コーヒーク喫茶室で自己紹介かたがた休憩

後に、池原橋を通り明神池・池神社に15時半に着く。



聖護院門跡一行の到着



喫茶室にて休憩



池神社で勤行

池神社は、役行者が神気に打たれて開いたとされ、明治の神仏
分離令・修験道廃止令前迄は、池峯大明神と呼ばれ役行者像が安
置されていた。

明神池は、森沢義信著「大峯奥駈道七十五靡」では、理源大師
が平治の宿で呪縛した大蛇を遥の谷に投げ落ちた所は、たちまち
池となる、これが明神池の縁起である。又、笠捨峠(佐田ノ辻)で
悪さをする大蛇を、役行者が高下駄で踏みつけ、錫杖で跳ね飛ば
したところ、尾は奈良の「猿沢池」頭は熊野の「有馬の池」胴体
は「明神池」に落ちたという、明神池に七不思議の伝承がある。
などから大峯修験における「秘密の行場」とされてきたそうです。

法螺の音が池神社・明神池一帯に響き渡り、勤行がなされた。
その後、浦向の實利行者分骨碑(實利行者の足跡説明板設置)に
15時45分頃到着。

遅咲きのシャクナゲ1本が咲く分骨碑で、回向の勤行が約20
分なされ、久方ぶりの正規な勤行に實利行者も喜ばれていること
でしょう。

帰路は国道169号線を通り、16時半前に宿舎に戻り、18
時半からの夕食まで各自「きなり湯」入浴や散策等で過ごす。



池神社で記念撮影



實利行者分骨碑で勤行と記念撮影



梶野・青木氏は、平成の森バンガローで宿泊予定が少人数では高くなり同宿に替えたとのことから、一緒に食事を誘ったが遠慮して辞退。

18時半から特別夕食にしたので食堂ではなく「やすらぎの間・宴会場」座敷での夕食が始まる。

遠路ご出仕の労いと明日の開眼供養法要举行のお願いをしてビールで乾杯し開宴。宮城ご門主様は、お酒は飲まれずウーロン茶。

夕食の従業員接遇者は、熊野修験に良く参加され、現在サポート役をされている宮本淑子さんが担当され、何事も頼み易い。



夕食の懇談風景

夕食の献立は、料理長自製の豆腐が、甘く美味しいと好評で、四足の肉を避けた料理であったが、満足して頂けた様である。熊野三山(4合瓶)も差入れし打ち解けて談笑するうちにデザートが出され20時に終宴。ロビーに前役場勤務の勝平支配人が居られ、当ぐるーぷが行仙宿建設の折からお世話して下さった事を、ご門主様にご紹介し記念撮影をする。



勝平支配人と記念撮影



二次会

隣の部屋が賑やかで、熊野三山を持参して二次会に参加し、2時半に退室し就寝。

5月17日(水) 晴れ後薄曇り

年寄りの朝は早く5時頃に起床。青空が広がり雨の心配も無く、「修復・役行者像」の開眼供養法要が執り行えるので安堵する。

青木。梶野氏は、6時に登山口へ発たれる。聖護院門跡一行は、出発予定8時のため7時からの朝食を済ませ、ご門主様以外は山伏装束に着替えられ集まって来られた。

8時過ぎに出発し、行仙宿へ携帯で出発を伝える。落石防止工事による時間帯通行規制は、下北山村役場から業者に通行規制の無い仕事をする様に便宜を計って下さったのでスム

ースに通過。

登山口約200m手前の広い場所に、約10台駐車されている等の手配のお陰で、聖護院一行の車2台は登山口に8時40分に到着し登山口路側に駐車。川島車は約70m先に駐車。



宿舎出発準備



登山口到着



モノレールに荷を積む

程なくモノレールエンジン音がして下りてきて、荷を積み込み山
上さんが乗り込む。

聖護院門跡・宮城ご門主様全員は、空身で歩いて登る。宮城ご
門主様は、草鞋履きで86才の高齢を感じさせない本当に健脚で
あられる。

モノレール終点に着くと荷が無い。浅村仏師等がサポートに下
りて来られ荷を担いで行仙宿に戻ったとの事から、お陰で再び空
身で登る。

大台ヶ原山系の山並み、笠捨山を望みながら、約45分と通常
と変らない時間で登られ、幟と紅白の幕に囲まれた行者堂に到着。
以後は、「修復・役行者像」の開眼供養法要と慶讃の護摩供の報
告書に記載。



健脚なご門主様

行仙宿に前泊して開眼供養法要開催準備作業

◇実施日：5月16日（火）曇り時々薄日

◇参加者：沖崎吉信、木下嘉彦、濱野兼吉、乾 克己、畑林清子、

大江加予子・徳子、杉本俊也、浅村朋伸。

青木宏充（日帰り）。

10名。

昨年5月の熊野修験春峰の折、参加の一人から行仙宿「役行者
尊像」の傷みがひどく早急な修復の必要があると指摘された。

以前より我々としてもその必要性は感じていたが、この指摘に
より一気に火が着いたと言うか、動きが加速した。

以後一連の動きの中でも、胎内から「願文」が出てこなかった
らとしたら、又「道尊親王」の名が無かったら、おそらく内々で
の、それなりの行事として経過しただろう。

聖護院への連絡、先方の願文内容の確認等で、その由緒、価値
性の高さから落慶供養は、宮城泰年門主様含め当方が出仕との連
絡から、我々ぐるーぷとしてA級の行事として。取組む必要が生
じた。

（記 川島）

3月下旬、その修復開眼供養を5月17日(水)として、前日出向くとの連絡を頂いた。以降、大型連休の対応に加え、三井寺、熊野修験奥駈行の接待と、4月～5月にかけて年度替りとなることから、個人的に関与する諸団体の総会やら、その準備打合せも重なり多忙を極めた。

4月に入り会員会友の皆さんや関係先に案内文書を送付し、参加申込期限を5月8日迄として、40名程の参加申出をいただいたが、それ以後も参加したい、出席するの連絡が相次ぎ、最終的に60名近い人数となった。

会場となる行仙宿や行者堂の整理・清掃・会場設営に加え、直会で出す料理を手造りとしたこともあって、女性軍の3人は早々に前日から入ると申出があった。徳子ちゃんは、事前にこの日に合せ休む段取をして参加してくれた。

その荷上げも相当な量が予想されるし、特に水は1500ℓ位が必要になる。又、マグロや生物、餅などは、直前の荷上げでしか出来ないのので、その段取を5月14日(日)と前日と当日の3回に分ける準備を整えた。

第1回目荷上げの5月14日(日)は、10名の参加で米・調味料・パック等と持参した水道水と登山口水場で確保した水1000ℓ近くを荷上げ出来たことは、当日に向け大きな前進だった。

前日からの参加は、新宮組6人(沖崎・大江親子・畑林・木下・濱野)、奈良組3人(乾・杉本・浅村)の計9人である。

木下棟梁へは、事前に行者堂のお供えを置く(棚(板)の作製を依頼したところ、心よく引受けて頂いた上に、その設置も俺がやる「他人にまかせられん」と前日からの参加連絡があった。

棟梁なりに行仙宿・行者堂への深い大きい思いがあるようだ、感謝感謝だ。又、杉本、浅村の両君もそれぞれの仕事があって、入宿が夜遅くなるので、当日の日帰り参加組であった濱野君に前泊組への変更をお願いしたところ、心よく引受けて頂いた。

この日、下北山の「きなり湯」に宿泊する青木君も、早く行き

手伝うとの連絡があつて、総勢10名での準備作業となった。

10時前に登山口着。モノレール満杯の荷を棟梁運転で上へ。みんなが後を追うが、ぐるーぶとしてA級行事であり、門主様、玉岡相談役も下から歩くとの話があるので、沖崎は最後尾から「ほろき」を持って登山道の清掃を行いながら、モノレール終点地に着く。続きは明朝とし後を合う。終点にマグロの入った発泡スチロール箱と自ザック1個を背負子に付けるが、12～13kgと思いきや、箱の中には氷と水がぎっしり詰っていて、重い重いは20kgは超えていただろう。ふーふー言いながら小屋に着いた。

荷上げ品の仕分け後、昼食を済ませ準備にかかる。

なんと言ってもありがたいことは、雨の心配のないこと、天候に恵まれたことだ。出来ることは午後全てやっておこうとなった。小屋内のセメントやテールブルなど外へ出し、行者堂と共に清掃作業。乾、濱野君などは水の採取荷上げにも降りられる。

会場設営(長椅子並べ)では、連休中に頑張ってくれた梶野君作製の長椅子並べや紅白幕も設置する。

今回のヒットは、なんと言ってもイスだ。あの発想とアイデアと技術は、彼しかないだろう。

夕方6時近く迄かかって、やっと格好がついた。この間女性軍は、食材の調理や食器などの加工消毒に加え宿泊9人の夕食、翌朝食までお願いした。

今回16kgのマグロも寄進してくれた畑林秀味君からマグロ「せせり」5パックも差入れていただいた。

鍋料理とマグロせせりで夜の部開宴だ。乾さんから今日は俺の誕生日だとの発表もあつて、おおいに盛上げるなか、19時過ぎに杉本君が到着。更に浅村君も20時半は過ぎていただろう、やっと到着した。お二人とも現役で多忙ななか駆け付けてくれた。話も尽きないが、明日の事もあり22時前に就寝した。

5月17日(水)

早朝5時すぎから準備にかかった女性軍の動きで、目が覚めのは6時ごろ、朝食となる。

この日は、直会用のマグロの刺身等の調理料理と食器。バックへの詰込みがメインで、男の出る幕はあまりない。

6時半すぎから昨日やり残したモノレール終点から小屋間の登山道の清掃に箒を持って降りた。終点で青木君が待機。

和歌山から夜中3時半頃出たと言う茂原、平澤君は、各2箱の缶ビールを背負子に背負って下から上って来る。

モノレールの音も聞こえる、小屋に引返した後、一人二人と順次集まり出す。当日組女性軍の手伝いもあって料理も仕上って来る。

浅村君も早朝より2回往復しサポートされていた。

玉岡さん、聖護院も到着し、前泊準備組もやれやれとなった。

料理は、バック料理を買うか手造りするかの、四つ足や魚はダメなのか、精進料理か、お供えは何を準備するのか、門主様の丸太イスに座布団は、大勢の座るイスはどうするのかなど思案するやら、もめるやら、いろいろあったが、なんとかうまくいった。

前泊準備組の皆さんありがとうございました。特に大江加予子、畑林清子、大江徳子の皆さん厚く御礼申し上げます。

(記 沖崎)